

## 【成果と課題】（○…成果 ●…課題）

観察対象の子供の様子から

**意欲** ○「おうちの人に伝える」という課題を設定したことで、何となく書かされているという意識から、書きたいという気持ちに変わった。

○文章を書いたときに、友達と読み合う活動を入れると意欲が高まった。

●相手意識、目的意識以前の問題で、「何をしたら分からない」と意欲が下がることがあった。

**考え** ○友達と意見を交流する時間を確保することは、考えを深める上で非常に有効であった。（教師が聞くことも非常に有効である）

○考えを深める学習の流れは、「スピーチ」等の「話す・聞く」の学習にもつながった。

●付箋のメモを使い、たくさん書こうとしていたが、メモが文につながらないこともあった。

**技能** ○モデル文等を提示することで、書き方のポイントを理解し自信をもって書けた。（視覚的に示すことが有効であった）

●全体の指導だけでの知識・技能の習得が厳しい子供には、個別の言葉かけが重要であった。

本研究では、「書く力」を育てるために、習得と活用のサイクルを作り、教科横断的な学習を行ってきた。国語科で習得したことを、社会科や総合的な学習の時間で活用するなど、カリキュラムマネジメントの視点に立つて行うことが有効であることも分かった。しかし、その活用場面が社会科等に限定されていることは課題である。算数科や理科、他の教科・領域にも広げて考えることができるのではないか。更に、このカリキュラムマネジメントの考え方を「書く力」以外の資質・能力の育成でも生かし、学校教育全体で考えていくことも大きな課題である。教育目標の具現化のため、本研究で学んだ考え方を活かして教育活動を進めていきたい。

## 【おわりに】

### 国立市立国立第二小学校 副校長 柳澤 謙

本校では、平成30年度・令和元年度国立市教育委員会研究奨励校の指定を受け、「意欲的に学び、よく考え表現する子供の育成～『書く力』を育てる指導を通して～」を研究主題とし、国語科を中心に研究を深めて参りました。研究を進めていく中で、児童が主役の二小らしくあるため、先生方が何度も試行錯誤して取り組む姿が印象的でした。先生方の思いが児童に伝わり研究の成果として花開いた反面、課題もあります。今後も児童と共に研究し続ける所存です。

最後になりましたが、ご多用の中、教職員一人一人に温かいご指導をいただきました、教育調査研究所研究部長 寺崎千秋様 日本国語教育学会小学校部会長 今村久二様、国立市教育委員会の皆様に、厚く御礼申し上げます。